

【教職課程に関する情報公開】

高崎商科大学は教員の養成に係わる質の向上に対するアカウンタビリティを果たすために、教職課程に関する情報を公表します。

高等学校 1 種免許課程

高崎商科大学における教員養成の目標と計画

教員養成の目標

高崎商科大学は「自主・自立」を建学の精神に掲げ、教育理念を基に「実学」教育に取り組んできました。本学では、小さな単科大学という利点と特性を生かしながら、商学部としての教育・研究を通じて、商学に関する専門的な知識や技能だけを持つのではなく、深い人間理解、幅広い教養に裏付けられた人材の育成を標榜しています。

本学の教職課程における教員養成の目標は、大学の建学の精神、教育理念・目的と考え方を同じくしています。これからの予測が困難で多様な実社会の変化に対応でき、かつ生徒の多様なニーズに対応・変革できる人材の育成を担う教員を、輩出してゆくことを本学の教員養成に与えられたミッションと考え、その思想に沿って社会貢献、地域貢献を果たしたいと考えています。

より具体的な商学部としての教員養成の目標としては、経営学・会計学の高度な専門性に裏打ちされた商業科の教員を育成することとなります。

目標達成のための計画

今、学校現場では、豊かな教職教養と専門的な力量を身に付け、生徒に寄り添える教師が強く求められています。また自らの教師としての実践を省察でき、そこで発見した課題に向かって常に向上するために学びの努力を惜しまない自律的な教員を育成することが要請されています。これらの目標を達成するために、各年次における目標と計画を以下のように設定しています。

〈1年次〉

学校教育を担う上での一般的教養を身に付けさせます。並びに教育学の理論、教育心理学の理論、カウンセリング理論を学び、「教師の意義・役割・職務内容」、「教育の本質とは何か」、「教育の思想と歴史」、「生徒の心身の発達」、「学習のプロセス」「教育相談・カウンセリングとは何か」、「学校における道德教育の可能性」について理解を深め、表現できるようにします。1年次より模擬授業・ロールプレイなどアクティブ・ラーニングも導入します。また学校ボランティア等により学校現場の理解を深めさせます。つまり教育の基礎理論を、教職への意義と責任の重さを理解し、教職への意欲と志を醸成させます。

〈2年次〉

教育を巡る一般的な問題、学校現場で生起している問題、家庭・学校・地域社会の問題を発見し、それについて研究し対応策や指導法を考えることができるようなケース・スタディを行い学園祭などで発表します。この学びは「総合的な学習の設計と運営」を学ぶ上でも効果が期待されます。

「学校に関する基本的な法律」、「学校の組織・マネジメント」、「生徒指導上の指導理論と方法」など教科指導を行う上での基礎的な知識・技能を身に付けさせます。また学校ボランティア等により学校現場の理解を深めさせます。履修カルテによる自己評価による現状の把握と改善を行います。つまり、教育実践の要素、実践に伴う事実を深めさせつつ、自らの教育観や学び観や生徒観を形成させます。

〈3年次〉

基礎的な教育実践力の体得と向上を目指します。「教育課程編成の方法」、「カリキュラムマネジメント」、「授業を創るとはどういうことか」、「ICTを活用する授業とはどういうものか」など教科指導を行う上で基礎的な知識・技能を身に付けます。生徒の実態に応じた教材研究、指導案・授業書・ワークシートの作り方、教授行為、授業形態の②方法など授業の構想力を身に付けます。

教育実習に向けての授業技術の向上を進めます。模擬授業の実践を通して省察し、課題を発見し、克服するように指導します。学習経営案の作成の仕方など「特別活動の指導理論と方法」を学ぶと同時に、中学校行事支援等の学校ボランティア等を通じて学校現場の理解を深めます。履修カルテによる自己評価による現状の把握と改善を行います。

〈4年次〉

1～3年次における商学部商学科・経営学科及び会計学科と教職課程での学術の修得や学校ボランティア活動などの成果を活用し、教育実習での教科指導・生徒指導を行う実践的指導力を養います。

教育実習を通して学校教育を取り巻く環境や諸問題をどう理解したかを確認し、その問題解決へ取り組む理論・方法を意欲的に学ぶ態度を養います。

自己の教員としての適格性について考え、発見した課題に向かって常に向上するために学びの努力を惜しまない自律的な教員となる資質・能力を高める。履修カルテによる自己評価による現状の把握と改善を行います。